

事業名

チャレンジ&チェンジ！2024 ―海拔0m～3,000mへの挑戦―

団体名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立立山青少年自然の家

背景・課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、子供たちの遊びや体験の場、本物に触れるなどの体験活動の機会が減少した。このことにより、子供たちのコミュニケーション能力、主体性、社会性などの非認知能力を育成することが喫緊の課題である。

事業趣旨

富山県の雄大な自然にふれながら、海拔0m～3,000mを自力で踏破することにより、仲間との絆を深め、仲間とともに達成感を味わい、課題解決力を育む。また、小学生と中学生の異年齢による集団において、長期間、様々な人と関わりながら活動に取り組むことで、主体性、社会性を養うとともに、豊かで自立した人格形成の基礎を培う。

事業の内容

参加者
・小学5年生～中学3年生までの18名
班編成
・3班編成（各班男女混合の6名）

③本キャンプ

①ボランティア研修

日付	午前	午後	夜
7月11日 (木)			・ボランティア顔合わせ ・アイスブレイク内容検討
7月20日 (土)	・自転車行程下見 浜黒崎海岸～常願寺公園～あるべん村～山野スポーツセンター	・細案読み合わせ ・安全管理研修	
7月21日 (日)	・登山行程③下見 室堂～の越～雄山～大汝～の越～室堂		

②事前説明会

日付	午前	午後
7月15日 (月・祝)	・日程概要説明 ・持ち物説明	・健康状況聞き取り(保護者) ・アイスブレイク(参加者)



段階	日付	午前	午後	夜
助走	8月4日 (日)	・出会いの集い	・班タイム ・野外炊事	・班タイム ※自然の家泊
	8月5日 (月)	・マウンテンバイク練習 ・立山ジョイフレンド	・森の遊び場づくり ・焚火	・班タイム ※自然の家泊
ホップ	8月6日 (火)	・自転車行程 浜黒崎海岸～常願寺公園～あるべん村～山野スポーツセンター		・班タイム ※山野スポーツセンター泊
	8月7日 (水)	・ゲレンデアクティビティ (あわすのスキー場)	・歩行行程 あわすのスキー場～登山研修所	・班タイム ※登山研修所泊
	8月8日 (木)	・立山開山についての講話 ・カルデラ砂防博物館見学	・まんだら遊苑見学 ・立山駅散策	・班タイム ・バックキング ※登山研修所泊
ステップ	8月9日 (金)	・登山行程① 千寿ヶ原～美女平～弘法～弥陀ヶ原		・班タイム ・星空観察 ※立山荘泊
	8月10日 (土)	・登山行程② 弥陀ヶ原～天狗平～室堂		・班タイム ※室堂山荘泊
ジャンプ (未来へジャンプ)	8月11日 (日)	・登山行程③ 室堂～の越～雄山～大汝～の越～室堂		・班タイム ・星空観察 ※室堂山荘泊
	8月12日 (月)	・室堂散策 ・班タイム	・ファイナルパーティ準備	・ファイナルパーティ ※自然の家泊
	8月13日 (火)	・班タイム ・別れの集い		

④成果の普及

- ・関係教育施設へ報告書を発送（配布部数350部）し、指導の参考にできるようにした。
- ・本所ホームページにおいて、報告書を閲覧できるようにし、関係者以外の一般の方も閲覧できるようにした。
- ・令和7年6月（予定） 富山国際大学において報告会及び自然体験活動における指導についてのワークショップを開催する。富山国際大学子ども育成学部の「自然体験活動」の講義の中で、報告書をもとに、長期キャンプの効果や長期キャンプでの子供との関わりにおけるスタッフの在り方や指導について、グループワークを行う。大学卒業後に、保育士や小学校の教員を目指す学部生約100名が参加予定。

成果及び今後の展開

- ・長期キャンプでの自分やグループの成長の段階を「助走」「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」とし、キャンプのはじめのついでに各段階でのねらいを明示した。そうすることで、自分やグループの成長や立ち位置を自分たちで確認しながら、主体的に活動を進めることができた。
- ・「理想のリーダー像」や「本音で語ろう」など、リーダー会議や毎日の振り返りタイムに、意図的な課題の提示をすることで、子供たちの仲間意識が高まったり、より深い人間関係を築いたりすることができ、さらに「みんなで」キャンプをつくっていくという主体性を育てることができた。
- ・「助走」の段階では、仲間づくり活動を十分に行い、安心して仲間と一緒に活動に取り組めるプログラム構成にし、「みんなで」課題に取り組む雰囲気づくりを行うことで、最後まで目標を明確にして仲間意識を大切にしながら進めることができた。
- ・キャンプのアドバイザーである富山国際大学の松山先生の助言のもとに、子供同士の関わりや在り方や振り返りについて協議することで、よりよい仲間づくりと主体性を育むための振り返りの方法をボランティアリーダーと共有し、子供たちが自ら課題を見付け、解決に向かって活動を進めることができた。
- ・熱中症対策を十分に行って活動を進めているが、参加者がさらに安心して活動に取り組めるよう自転車行程も看護師が随行し、現場で対応に当たることができるようになる必要がある。
- ・より充実した活動になるようボランティア育成が課題である。また、ねらいに沿ったプログラム構成やプログラム内容の検討が必要である。